

略算法例示 (林業表に依る場合)

オシダ 樹高 15M 胸高直径 30CM

	樹高	指数	幹材積	素材材積	林獲素材積	積算歩合
(A) m ³	15	$0.035 = 0.525 (m^3)$			0.520 m ²	100.9%
(B) 石	15	$0.12 = 1.80 (石)$			1.87 石	96.2
(C) 14尺	15	$9 = 135 (尺)$		1.35 石 (71%)	133 尺	101.5
(D) 12尺	15	$10 = 150 (尺)$		1.50 石 (83%)	156 尺	96.1

まつ 樹高 20M 胸高直径 38CM

(A) m ³	20	$0.052 = 1.040 m^3$			1.051 m ³	88.9%
(B) 石	20	$0.19 = 3.80 (石)$			378 石	100.5
(C) 14尺	20	$14 = 280 (尺)$		2.80 石 (71%)	270 尺	103.7
(D) 12尺	20	$16 = 320 (尺)$		3.20 石 (89%)	315 尺	101.5

滴葉樹 樹高 14M 胸高直径 28CM

(A) m ³	14	$0.028 = 0.392 m^3$			0.400 m ³	98.0%
(B) 石	14	$0.1 = 1.40 (石)$			1.44 石	97.2

マテバシヒ施業の一考察について

遠藤 豊

緒言

長崎県平戸町を中心とする半径40K内の各地に非常に良く成長しているマテバシヒについて調査した考察事項について述べる。

一、植生の位置

群生地は旧平戸藩領土即ち北緯33度—34度、東経129度—130度内にあつて、その面積5,800町歩、蓄積1,033,4石あるが長崎県内の他地方には少し宛散在しているが成育は余り思わしくない。

二、気候状況

植生地の昭和22年から昭和26年迄の6ヶ年間の平均気象は次の通りである。

気温年平均	15.8度	湿度	71%
降水量	160mm	降水日数	16日

三、土質の状況

前記場所の地質は、大部分玄武岩で、一部分は安山岩であつて、その他の場所では余り成長はよくない。

土質は礫土、植壊土が大部分であるが土壌阿保では成育の变化は認められない。

四、樹高折解

マテバシヒは、シヒ、カシの大体中同的のものであるが、比較検討する海平戸町附近の同一場所で27年生のシヒ、マテバシヒ、カシの標準木を取つて樹高折解を行つたのである。

その結果、シヒの胸高直径3寸5分、樹高40尺で尚今後上長並びに肥大成長共相当有望の態勢にある。

マテバシヒは胸高直径2寸7分、樹高32.5尺で枝系は平状を呈しているの上長成長は稍、衰えつゝあるが肥大成長は今後相当確実するものと考えられる。

樹太木となつても天牛の被害を受けて材質の損傷を受けることはない。

次にカシは胸高直径2.2寸、樹高30尺あつたが上長並びに肥大成長は今後余り旺盛とは思われない。

尚、天牛の被害はシヒと同様に受け材質を損傷する虞がある。

五、樹高曲線

樹高曲線比較表は次の通りである。

樹高曲線比較表

樹種	二年	七年	十二年	十七年	二十二年	二十七年
シヒ	7 ^尺	7.5 ^尺	25 ^尺	29.5 ^尺	32 ^尺	40 ^尺
マテバシヒ	10	13	25	28	31.5	32.5
カシ	8	16	17.5	20	25.5	30

六、成長年曲線

成長年曲線比較表は次の通りである。

樹種	二年	七年	十二年	十七年	二十二年	二十七年
シヒ	27 [%]	21.1 [%]	14.7 [%]	13.2 [%]	6.9 [%]	4.9 [%]
マテバシヒ	23.9	14.4	9.9	8.7	6.5	4.9
カシ	23	11	8.4	7.6	6.4	4.5

七、蓄積の状況

海平戸町附近で同一場所附近の海拔200米、北向傾斜13度の所で各13年生について1畝歩兎をとり蓄積調査の結果は次の通りである。

樹 種	本 数	一株の本数	材 積	指 数
シ ヒ	147 ^本	2.3 ^本	6.06	138
マテバシヒ	163	5.6	6.69	153
カ シ	153	3.4	4.38	100

八、材質の比較

比較表は省略するが、比重、重量、質相と共にマテバシヒは中間的なものである。尚、用材としての用途は滑車、舟の楫、道具の柄、ロクロ細工に通じている。

九、薪炭関係

収入はカシに比較して、木炭ではマテバシヒは1畝歩当63%、シヒよりは31%増で、薪ではカシに対し80%、シヒに対し2%増で有利である。

十、増殖方法

1. 苗種 栗及び栗の長味のものゝ丸味のものゝ二種類あるも、成長其の他は差りはない。
2. 種子 1升580粒位あるも虫害を受け易い。尚食用に供せられる。
3. 苗圃 二昼夜浸水した実を9月下旬に播種する。5寸位覆土する、2年向床管理をしない
4. 植付 2年生苗を1月下旬から2月上旬に植付する。但し根を切らない。

十一、結 論

以上の如くマテバシヒは、成長材質は中間的のもので、薪炭材として有望と認められ、大木になり得るので防風林、防火林、遮つさ林に適してあり、炭質は比較的よく薪としてはカシに匹敵するから之が適地も各地にあると思われるから薪炭林の樹種更新に採用して増殖に努める必要があると考察する。

国家経済上より見たる 樹種政策について

九大農学部 大野俊一

吾國の森林は大東亞戦争中は勿論、戦後も巨大な数量の林産物特に木材を供給したのみならず、人間及び家畜の栄養の補充にも役立つたのである。このことは樹種の豊富さによるものである。今日木材は鉄、石炭及びその他の鉱産物と共に吾が産業の重要な原料となつてゐる。又木材は建築業、鉱山業及び製紙業等にとって不可欠のものであり、更に木材を原料とする新産業、特に人造製紙が発達して来た。今日總て此新産業は各種